

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第47週 (11/16-11/22) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	47週	46週	45週	44週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	11/16-11/22	11/9-11/15	11/2-11/8	10/26-11/1	11/9-11/15
			47週	46週	45週	44週	46週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	1
	咽頭結膜熱		1	4	0	0	18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		8	5	1	2	71
	感染性胃腸炎		13	25	11	22	140
	水痘		2	4	3	2	33
	手足口病		0	0	0	0	0
	伝染性紅斑		0	1	0	1	2
	突発性発しん	○	13	12	10	14	51
	ヘルパンギーナ		2	4	2	6	13
	流行性耳下腺炎		1	3	1	2	11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	1	1	0
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎	○	4	2	0	1	9
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	3	0	0	3
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(81件)

※新型コロナウイルス感染症76件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	IGRA検査	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	60歳代	IGRA検査等	梅毒	女性	40歳代	血清抗体の検出
梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第47週は、結核2件(138)、梅毒3件(19)、新型コロナウイルス感染症76件(1005)の発生届があった。

※ ( )内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第47週のコメント

<突発性発しん> 前週より増加し、過去10年の同時期と比べると多めとなった。

<流行性角結膜炎> 前週より増加し、過去10年の同時期と比べると多めとなった。

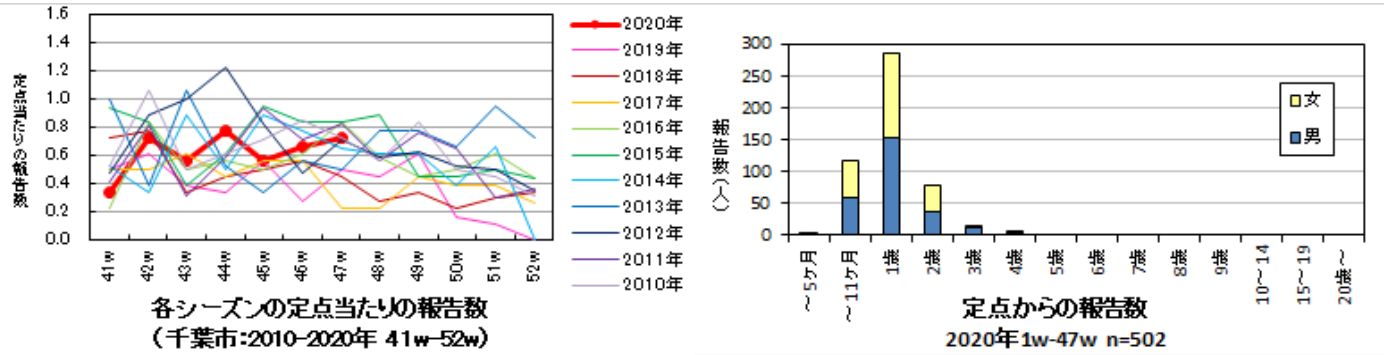
■ トピック ■

＜突発性発しん＞

全国レベルの第46週は0.42で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、佐賀県、熊本県、愛媛県の順に多く報告されています。千葉県は0.38でほぼ全国レベルと同等となっています。

千葉市の第47週は、前週より増加し0.72となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2020年第1週から第47週までの累積報告数は502件で、男性が52.8%(265件)、女性が47.2%(237件)で、年齢階級別では1歳(56.8%:285件)、6-11か月(23.3%:117件)、2歳(15.5%:78件)の順で多くなっています。

突発性発しんはヒトヘルペスウイルスによる感染症で、生後4か月ごろから1歳ごろまでの乳幼児に発生する代表的な疾患です。予後は一般に良好で、初感染以降は潜伏感染状態となり、ウイルスは断続的に唾液から排泄されます。38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に数日間出現します。通常予後良好な疾患であることから、特別な予防法や予防接種はありません。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの第46週は0.25で、過去10年の同時期と比べると最少となっています。都道府県別では、宮崎県、山形県、大分県の順に多く報告されています。千葉県は0.26でほぼ全国レベルと同等となっています。

千葉市の第47週は、前週より増加し0.80となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、若葉区(3.00/定点)で最多で、同区の6歳、30歳代及び50歳代で発生報告がありました。2020年第1週から第47週までの累積報告数は50件で、男性が60.0%(30件)、女性が40.0%(20件)で、年齢階級別では30歳代(24.0%:12件)、20歳代(18.0%:9件)、40歳代(14.0%:7件)の順で多くなっています。

流行性角結膜炎は、アデノウイルスによる眼感染症で、感染力は強く汚染された手やティッシュペーパー、タオル、洗面器などに接触することにより感染します。年齢による発症の差はあまりなく、どの年齢でも起こります。約1~2週間の潜伏期の後、結膜の充血、まぶたの浮腫、めやに、涙、眼痛を示します。また、耳の前のリンパ節の腫れ、圧痛を伴うこともあります。

予防法としては、アデノウイルスは感染力がとても強いので、次の点に注意します。

- ・石鹸と流水での小まめな手洗い、手指消毒を実施する。
- ・家庭内感染を避けるため、タオルや洗面道具の共用は避ける。
- ・感染者の入浴は家族内で最後にするか、シャワーのみにする。

